

学而第一

子曰、不患人之不己知、患不知人也。

子曰わく、人の己を知らざることを患えず。

人を知らざることを患うるなり

(1-16)

<子曰わく、人の己を知らざることを患えず>

Q:「子曰わく、人の己を知らざることを患えず」とは何ですか。

A: (1)「孔子が言った。他人が、こちらの真価を知ってくれなくとも、気にかける必要はない」の意。

(2)「他人が自分の学徳と実力を知ってくれないことを心配すべきではない」の意。

(3)「患う」とは、「心配し、気にかける。苦しめる」の意。

<人を知らざることを患うるなり>

Q:「人を知らざることを患うるなり」とは何ですか。

A: (1)「それよりも、自分が、他人の真価を認めないことを、心すべきである」の意。

(2)「ただ、他人の賢、愚、能、不能を自分が知らないのではないかを心配する」の意。

(3)人を知るの明は、古今東西の別なく困難。更に明君賢臣が並び立って十分に働きを表すことは極めて稀有のこと。孔子も学徳が成って、天下に自分が登用され、その道の実現されることを念願。孔子の門人もまた、この希望にもえた。しかし、子弟ともに天下に明なきを嘆いた。天下の知遇は時にかかわり、他人のやることであって、孔子の聖を似てしてもこの窮達の展開は如何ともできなかった。孔子はこの理に目覚めた反面、己もまた人の賢愚正邪を見誤りはしないかとひそかに恐れるに至った。己の不明のために、世の賢哲を見逃したり、また、世人に害毒を及ぼしてはならない。かくの如く自分に対する人の毀譽、つまり悪口を言うこととほめることはこれを超越し、人の是非を知って過誤なからんことを期したのは、失敗と苦勞を重ねた長い人生航路において至った尊い人生観。

(4)論語の編者は、孔子のこの語を記録して、第一章の「人知らずして慍らず、亦た君子ならずや」に呼応せしめた。

2011年6月7日林明夫記